

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00916

研究課題名（和文）歴史教科書における東南アジア史関連地図の検討：朱印船と日本町を中心に

研究課題名（英文）A research on maps of Southeast Asia in history textbooks: Focusing on maps about the Red Seal ship trade and the Japanese quarter

研究代表者

蓮田 隆志（Hasuda, Takashi）

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授

研究者番号：20512247

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1980年代以降の日本の中学・高校の歴史教科書に掲載されている東南アジア史関連の図版に着目する。ただし、その内容自体の検討よりも、背景としての学界動向や学説史、教科書出版を取り巻く社会情勢の推移との関係を明らかにすることを目指し、教科書記載図版の網羅的調査を行うことができた。

日本史分野については史学史の雑誌論文、アジア史については東南アジア史通史や経済史を中心とする広域アジア史の概説書として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東京の教科書図書館にて網羅的な教科書現物調査を行った。その成果は現在成稿中である。研究成果としては、蓮田はアジア史の学界展望・回顧に関するレビューを発表し、内田は日本の歴史教育に関する論考を日英両言語で発表した。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the maps and figures related to Southeast Asian history published in Japanese junior and senior high school history textbooks since the 1980s. Rather than examining the contents themselves, we were able to conduct a comprehensive survey of the maps in textbooks with the aim of clarifying the relationship between the trends in the academic community, the development of theories, and the transition of the social situation surrounding the publication of textbooks as the background.

We published some journal papers on the historiography of the Japanese history, and a text book of the wide Asian history focusing on the economic history including Southeast Asia.

研究分野：東南アジア史

キーワード：朱印船 歴史教科書 日本町

1. 研究開始当初の背景

近年の教育改革を通じて、「主体的・対話的で深い学び」が目標として示された。これに伴い教科書の位置付けにも変化が生じ、生徒が自分たちで学ぶための道具としての役割が重視されるようになり、図表や問いの掲載が増加した。そのため、教科書を問題とする場合、本文の記述内容だけでなく、地図やグラフ、概念図などの役割や影響力に目を配る必要が高まってきた。他方、中高での地理教育で世界地誌についての網羅主義が放棄されたこともあり、地理教育の専門家からは、世界認識を形成する役割も世界史(本研究課題開始時点では高校での必修教科目)に譲らざるを得ないという認識も提出されており、歴史教科書に掲載される各種地図の重要性は高まっている。

しかしながら、現行の歴史教科書には誤りを含む地図が確認される。例えば日中直接交易が不可能なために朱印船制度が生まれたにも関わらず、朱印船が日本と中国とを結んでいるような、深刻な誤りを含む地図が多くの歴史教科書に掲載されている(これは、本研究開始時点での状況で、高校での歴史系科目が再編された後の、2022年度から開始された「世界史探究」「日本史探究」の教科書についてはこの限りでは無い)。特に中学では全社の教科書に地図が掲載されており、かつほぼ全てが上述の誤りを含んでいる。つまり、特定の執筆者や出版社の怠慢として切り捨てることは不相当で、なぜ、何に依拠してこのような誤った地図が各社で採用されているのかが問われねばならない。代表者および協力者の川口・久礼が朱印船貿易・日本町関連の主要研究書・教科書所載図版を分析した結果、それらの誤りには元となる既存の研究文献が存在し、その段階での誤りが歴史教科書に引き写されたり拡大されたと考えられる場合が多いことが判明した。

2. 研究の目的

本研究は、中学・高校の歴史教科書に掲載されている東南アジア史関連の図版(特に朱印船貿易・日本町関連地図)における記載を網羅的に収集・分類した上で現在の研究水準に照らした訂正を行い、それら誤記の来源をできる限り確定することを目的とする。それらの地図は世界史では半分ほどの教科書にのみ掲載されているが、日本史および日本史が多くの分量を占める中学の歴史教科書では例外なく掲載されている点に留意する。また、日本史研究者と東南アジア史研究者の協働によって、教科書執筆者を取り巻く学界動向の推移、学習指導要領の変遷や教科書出版を取り巻く社会経済情勢の推移が与えた影響も当然、検討の対象となる。

中学校社会科歴史分野および高校日本史(日本史Aは近現代のみのため除外)世界史の教科書に掲載されている図版のうち、2018年および19年発行の教科書にて多数の誤りがあることが確認されている朱印船貿易・日本町関係地図を対象を絞り込む。また、現在は教科書出版から撤退している会社も含めて網羅的に調査を行う。

代表者らのこれまでの研究から、1986年出版の『週刊朝日百科日本の歴史31』(朝日新聞社)所載地図が大きなインパクトを与えたと予想されること、戦後初期の教科書は残存状況が良くないことなどから、1980年代初頭以降を中心に調査を行う。調査の過程で70年代以前に遡る必要があると判断されれば、適宜調査範囲を拡大する。

3. 研究の方法

当初予定では、教科書図版の閲覧・複写は協力者を含めた全員で分担して行う。代表者の蓮田は全体の統括を行うとともに、地図の記載のうちインドシナ地域の検討、東南アジア史に関する関連学説史の検討を行う。分担者の内田は日本史学界の動向や教科書を取り巻く日本社会の社会的制度的な変化を検討する。協力者の川口はタイ・ミャンマーを担当し、同じく協力者の久礼はインドネシア・マレーシア地域を担当するというものだった。

しかしながら、新型コロナウイルスの蔓延状況の問題から、教科書図版の閲覧・複写については、代表者の蓮田が単独で教科書図書館(東京都江東区)に出向いて撮影を行い、昭和40年大以降の中高歴史教科書所載の朱印船貿易関連図版については、ほぼ全て調査することができた。また、当初計画では古書店などを通じて古い教科書を購入することも予定していたが、古書店が主に取り扱っている教科書は希少性と史料性の高い戦前刊行のものが中心で、昭和後半期以降の教科書はほぼ市場に出回っていなかった。

4. 研究成果

研究期間全体を通じての最終的な研究成果は、論文4本(うち、英文2)、書評・学界展望3本、学会発表5回(うち、国際学会3回)、翻訳書2冊(上下巻)、分担執筆した書籍2冊、ワーキングペーパー1本となる。書評・学界展望が3本あり、また学会発表も学界展望的性格のものが多く、本課題の性格を反映している。

これらのうち、研究分担者の内田は、歴史教育に関わる論文を3篇(英文2)発表し、学会発表を1回行ったほか、日本の学術史に関する書籍2冊の編者となっている。

研究代表者の蓮田は、共訳の翻訳書であるアンソニー・リード（著）『世界史のなかの東南アジア：歴史を変える交差路』（上下、名古屋大学出版会、2021年）が第39回大平正芳記念賞特別賞を受賞した（2023年2月）。この賞において、翻訳書の受賞は異例とのことであり、審査委員会から本訳書がいかに高く評価されたかが分かる。また、本研究の成果を含んだ概説書として、古田和子・太田淳（編）『アジア経済史』（上、岩波書店）を刊行したほか、本研究プロジェクトの主題である朱印船貿易に関わる書評1篇を刊行、学会報告1回を行った。これに加えて、東南アジア史全体の学界展望に関連するブックチャプターおよび学界展望論文1篇を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 蓮田隆志	4. 巻 52
2. 論文標題 書評：弘末雅士・吉澤誠一郎（責任編集）、上田信（編集協力）『東アジアと東南アジアの近世：15～18世紀』（岩波講座 世界歴史12）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東南アジア：歴史と文化	6. 最初と最後の頁 89-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蓮田隆志	4. 巻 130-5
2. 論文標題 回顧と展望：東南アジア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 271-278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 蓮田隆志	4. 巻 16
2. 論文標題 東洋学の名著：山本達郎（編著）『ベトナム中国関係史：曲氏の抬頭から清仏戦争まで』（山川出版社、1975年）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国史史料研究会会報	6. 最初と最後の頁 29-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田力	4. 巻 55
2. 論文標題 国際共生社会にふさわしい歴史教育・歴史研究を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋大学国際共生社会研究センターニュースレター	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chris Clayton, James Greatrick, Mei Kanehara, Meha Kaul, Adrijana Miladinovic, Aimi Muranaka, Hwa Namkoong, Lauren Power, Fei Tong, Chikara Uchida, Eriko Yamada	4. 巻 -
2. 論文標題 GCM Review Consultations JAPAN Country Report on Migration	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Regional Review of Implementation of the Global Compact for Safe, Orderly and Regular Migration	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chikara Uchida	4. 巻 27.09.2021
2. 論文標題 Beyond Demographic Changes: The Renewed Role of National History in 21st-Century Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 H-Soz-Kult	6. 最初と最後の頁 n.p.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chikara Uchida	4. 巻 37
2. 論文標題 Considering History Education and Research for Sustainable Development	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Newsletter: Center for Sustainable Development Studies, Toyo University	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Hasuda Takashi
2. 発表標題 Early modern Japan-Vietnam relations: From the age of fake mission to the age of correspondence
3. 学会等名 East Asian Port Cities and Taiwan in the Seventeenth Century (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chikara Uchida
2. 発表標題 Natural Resources and Their Use as Capital: The Issue of Interwar Capitalism for Forestry
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内田力
2. 発表標題 歴史総合で考える「グローバル化と私たち」: 記憶・歴史・倫理
3. 学会等名 歴史学会・歴史総合シンポジウム「「グローバル化」の論じ方 わたしたちの生活と世界」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chikara Uchida
2. 発表標題 Historical Contexts of the Global Compact for Migration and Migrant Integration in Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田励夫・蓮田隆志
2. 発表標題 安南(ベトナム)からの国書について
3. 学会等名 日越国交樹立50周年記念シンポジウム「日越関係: 過去・現在・未来」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 アンソニー・リード、太田 淳、長田 紀之、青山 和佳、今村 真央、蓮田 隆志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 398
3. 書名 世界史のなかの東南アジア [上]	

1. 著者名 アンソニー・リード、太田 淳、長田 紀之、青山 和佳、今村 真央、蓮田 隆志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 世界史のなかの東南アジア [下]	

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学	

1. 著者名 蓮田隆志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 立命館アジア太平洋研究センター	5. 総ページ数 30
3. 書名 後期黎朝勅式人事文書集	

1. 著者名 園田茂人・鍾以江・内田力・板橋暁子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 76
3. 書名 国際総合日本学ネットワーク10年の歩み	

1. 著者名 大塚英志 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 483
3. 書名 運動としての大衆文化	

1. 著者名 中島隆博・小野塚知二・大木康・園田茂人・松方冬子・鍾以江・馬場紀寿・内田力	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 90
3. 書名 東京学派の研究	

1. 著者名 古田和子、太田淳、石川亮太、小川道大、柿崎一郎、蓮田隆志、平井健介、村上衛、脇村孝平	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 アジア経済史(上)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	内田 力 (Uchida Chikara) (00865165)	東洋大学・国際共生社会研究センター・客員研究員 (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関